

研究課題名	内視鏡的逆行性胆嚢ドレナージ後の待機的腹腔鏡下胆嚢摘出術における検討
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器外科
研究責任者(職名)	円城寺 貴浩 (消化器外科医長)
研究期間	承認日 ～ 2026 年 3 月 31 日
研究目的と意義	胆嚢炎の患者さんに対する内視鏡的逆行性胆嚢ドレナージ(Endoscopic retrograde gallbladder drainage ; ERGBD)とその他の治療法の関連について検討します。ERGBD 留置が手術部位感染(SSI)発生のリスクになることが示唆されています。ERGBD 留置症例について SSI 発生に関するリスクを詳細に調査することで、適切な周術期管理および ERGBD チューブの取り扱いが明らかになり、SSI 発生頻度を減少させることができると期待できます。
研究内容	●対象となる患者さん
	胆嚢炎の患者さんで、当院にて 2020 年 1 月 1 日～2025 年 8 月 31 日の間に(腹腔鏡下)胆嚢摘出術を受けた患者さん
	●利用する情報
	・患者背景：病名、病歴、年齢、性別、身長、体重、喫煙歴 ・血液検査：AST、ALT、血小板、白血球数、アルブミン、LDL、HDL、TG、CRP、γGTP、BUN、Cre、Hb、T.Bil、D.Bil、HbA1c ・画像検査：CT、Magnetic Resonance cholangiopancreatography (MRCP) ・術前治療：ドレナージ、抗菌薬、経過観察 ・術中所見 ・細菌培養結果 ・合併症の有無
	●研究方法
	上記の情報をカルテより収集し、下記について検討します。 ・ ERGBD の抜去方法(術前・術後)、胆汁細菌叢の変化
問い合わせ先	所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所：長崎市新地町 6 番 3 9 号 電話：095 (822) 3251 (内線 3553) 受付時間：月～金 9:00～17:00 (祝・祭日を除く)